

区政Now！（令和3年10月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

お知らせ



9月30日をもって、東京都における緊急事態宣言が解除されました。しかしながら、依然として重症者数の水準は高く、再び感染拡大を招いてしまうと、すぐに医療がひっ迫した状態に戻ってしまう可能性があります。感染を一層抑制していくためにも、外出は少人数で混雑している場所や時間を避けて行動するなど、引き続き区民の皆様にはさらなるご協力をお願いいたします

新型コロナワクチン接種にご協力をお願いします。

妊娠中の方が感染すると、重症化しやすく、早産のリスクも高まるとされています。そのため、区では、妊娠中の方及び配偶者の方が希望する場合には、接種できる体制を整えております。なお、妊娠や胎児、母乳等にワクチンが悪影響を及ぼすという報告はありません。接種を希望する方は、新型コロナワクチン接種予約センター（0120 027 030）にご連絡をお願いいたします。

9月30日時点の2回目の接種率は以下のとおりです。

区全体...約71% 12～19歳...約43% 20代...約52% 30代...約61%
40代...約69% 50代...約78% 60～64歳...約83% 65歳以上...約89%

ワクチン接種だけで感染を完全に防ぐことは難しいため、2回目の接種後も、引き続き「密閉」・「密接」・「密集」を避けるとともに、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。体調が悪いと感じた場合には、外出を控えてください。

地震に備えて在宅避難の準備を整えましょう

地震が発生しても、自宅に倒壊の恐れがなく、周辺で延焼の危険性がない場合は、避難所への避難ではなく、自宅にとどまる在宅避難が有効です。在宅避難は避難所での生活に比べ、プライバシーの確保がしやすく、感染症等のおそれも少ない避難方法です。在宅避難に備えて、以下の自宅内における災害対策を確認しましょう。

食料や生活用品を備蓄しましょう

日ごろから、生活に必要なものを「家族の人数×7日分（最低3日分）」備蓄しておきましょう。普段食べているものや使用するものを多めに購入し、消費しながら保存する「日常備蓄（ローリングストック法）」が効果的です。

家具類の転倒や通電火災を防ぎましょう

家具類の転倒等によるけがや避難の妨げを防ぐためには、家具類のレイアウトを工夫するとともに器具で固定することが効果的です。また、地震で停電が起きた後、家電製品が引火物等に触れた状態で電気が復旧した際に発生する「通電火災」を防ぐために、強い揺れを察知した際にブレーカーを落とし、電気を自動的に止める「感震ブレーカー」の設置が効果的です。

これらの対策における助成制度があります。詳しくは荒川区ホームページをご覧ください。

種別	設置工事費	器具購入費	備考
家具転倒・落下・移動防止器具	限度額1万円 (工事費の1/2)	限度額5千円 (購入費の1/2)	・1世帯どちらか1回のみ ・表は一般世帯の例
感震ブレーカー	限度額6万円 (工事費の1/2)	限度額5千円 (購入費の1/2)	・1世帯どちらか1回のみ ・表は一般世帯の例

主な事業

夏休み子ども博物館「俳句をつくろう」を開催しました

奥の細道矢立初めの地として知られる当区では、平成27年3月に「荒川区俳句のまち宣言」を行い、子どもから大人まで俳句文化の裾野を広げ、豊かな俳句の心を育む取組として、俳句に関する様々な事業を展開しています。

8月20日には、荒川ふるさと文化館にて、「俳句をつくろう」を開催しました。参加した区内の小学生10名は、ふるさと文化館に隣接する素盞雄神社へ向かい、自然に囲まれながら、風鈴、蚊遣り豚(かやりぶた)、虫かごのキリギリス、草木にかけられたクモの巣等、夏の季語を真剣な眼差しで探していました。

その後、ふるさと文化館に戻り、俳句と自分が詠んだ句に絵を添える俳画づくりを行いました。季語はたくさん見つけることができたのに、いざ五・七・五で作ろうとすると、思いつかず、悪戦苦闘している様子も見られましたが、講師から丁寧なアドバイスを受け、個性豊かな句と俳画を作り上げていました。

参加者からは、「素盞雄神社で風鈴やセミを探ることができて楽しかったです。俳句を作るのはちょっと難しかったけど、また参加したいです。」という声をいただきました。



(素盞雄神社で季語を探す様子)



(俳句作りの様子)

主
な
事
業

リハビリ講習会「折り紙でパッチワーク」を開催しました

9月10日、荒川たんぼセンターにて、リハビリ講習会「折り紙でパッチワーク」を開催しました。この講習会は、障がいのある方が、様々な集団活動を行うことで、個人の身体の機能向上や回復を図り、生活の質を高めることを目的としています。

参加者は、誰もが幼いころから親しんできた折り紙を使い、お花のブーケのパッチワークを制作しました。台紙、花、葉をイメージした折り紙を選定し、見本を参考に、各々が丁寧に各パーツの作成や貼り付け作業を行い、自分だけのオリジナルの作品を制作していました。

ガイドヘルパーと一緒に参加した視覚障がいがある方からは、「折り紙は単純作業ですが、いざ作品が完成できたときは嬉しかったです。特に小さな折り紙は手先を使うので、リハビリになったと思います。また、視覚障がいがあっても、制作しやすいように、講師の先生が台紙の用意など工夫してくださったおかげで、支障なく制作できました。家でも作品を制作しているので、そのヒントにしたいです。」という声をいただきました。

今回制作した作品は、荒川たんぼセンターの入口に掲示する予定です。是非、機会があったらご覧ください。



(参加者の作品)